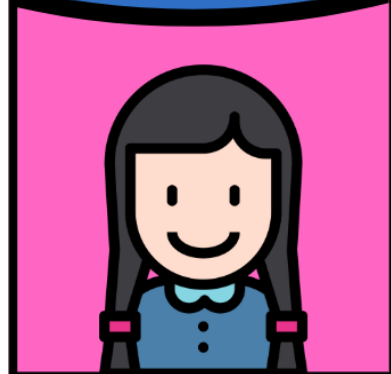
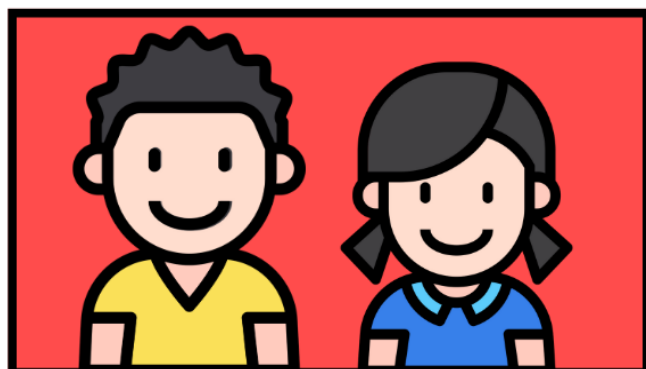


令和6年度 ふくい教育フォーラム

～子ども一人一人の可能性を引き出す多様な学びの実現～

二次案内

参加者募集 ※オンライン開催



令和7年1月14日(火) 14:00～16:30 基調講演と語り合い
講師：鈴木 寛 氏

令和7年1月15日(水) 13:20～16:30 実践発表（10本）

令和7年1月16日(木) 14:00～16:30 実践発表（8本）

※各発表は30分です。興味のある発表を選択して参加いただけます。

対 象 福井県内外の教職員および教育機関の関係者

参加申込 Googleフォームでのお申込み
<https://forms.gle/gtuUGxToHeSB1vt3A>



申込期間 令和6年11月12日（火）～12月26日（木）

【お問合せ先】 福井県教育総合研究所



ふくい教育フォーラム担当 玉本・島田敏

TEL：0776-58-2160（直通）

E-mail：t-shimada-5e@ma.fukui-ed.jp



基調講演と語り合い



テーマ

「子ども一人一人の可能性を引き出す多様な学びの実現」

講師 鈴木 寛（すずき かん）氏

東京大学教授、慶応義塾大学特任教授、福井大学客員教授、他多数の大学で教鞭を執る。

1986年、東京大学法学部卒業後、通商産業省に入省。資源エネルギー庁、国土庁、産業政策局、生活産業局、シドニー大学、山口県庁、機械情報産業局などで勤務。

2014年10月より文部科学省参与、2015年2月より2018年10月まで、文部科学大臣補佐官を四期務める。日本でいち早く、アクティブ・ラーニングの導入を推進。現行の学習指導要領の改訂や大学入学制度改革に尽力。

「どんな家に生まれても、どんな地域で育っても、すべての子ども・若者の最善の学びを」をライフワークとする。

令和5年度 福井県教育委員会主催「高校生のチャレンジを応援する高校生探究フォーラム」講師。



令和7年1月14日（火）

時間	内 容
13:30～13:50	Zoom入室・受付
13:55～14:00	諸 連 絡
14:00～14:10	開会の挨拶
14:10～16:20	基調講演と語り合い 「子ども一人一人の可能性を引き出す多様な学びの実現」 (講師：鈴木 寛 氏)
16:20～16:30	振り返り・諸連絡



実践発表 プログラム



令和7年1月15日（水）

時間	No	発表タイトル	発表者	No	発表タイトル	発表者
13:10～		挨拶・諸連絡			挨拶・諸連絡	
13:20～ 13:50	15 A ①	自分の考えを自分らしく表現できる 児童を育てる ～自分で選び、好きに学ぶ言語活動の試み～	教育総合研究所 教科研究センター 浅岡 揚子	15 B ①	ふくいだからできる、 ふくいの子どものためにできる 教職員の働き方改革とウェルビーイング	教職員課 学校業務改善G 増山 温子
13:50～ 14:00		休憩			休憩	
14:00～ 14:30	15 A ②	創造的な学びを支える カリキュラムデザインと集団づくり	福井市社北小学校 百田 翔哉	15 B ②	自己調整力の発揮	小浜市 小浜第二中学校 板谷 奈穂子 廣瀬 俊則 早 貴文
14:30～ 14:40		休憩			休憩	
14:40～ 15:10	15 A ③	福井県の教育を改めて考える	つくば市立春日学園 義務教育学校 伊藤 康孝	15 B ③	デジタル教科書 (詳細が決まりましたらHPでお知らせします)	〇〇中学校
15:10～ 15:20		休憩			休憩	
15:20～ 15:50	15 A ④	オンラインで広がる学びの可能性	福井市安居小学校 飯田 吉則	15 B ④	デジタル教科書 (詳細が決まりましたらHPでお知らせします)	〇〇小学校
15:50～ 16:00		休憩			休憩	
16:00～ 16:30	15 A ⑤	データとデザインで創出する、 生徒主体の探究学習	勝山高等学校 野坂 智裕 探究コーディネーター 永野 龍典	15 B ⑤	PBLとSTREAM教育の実践研究	坂井市立 春江小学校 五十嵐 洋行
16:30～		諸連絡			諸連絡	

令和7年1月16日（木）

時間	No	発表タイトル	発表者	No	発表タイトル	発表者
13:50～		挨拶・諸連絡			挨拶・諸連絡	
14:00～ 14:30	16 A ①	哲学対話の実践を解き明かす ～対話の談話分析と生徒の語りを通じて～	若狭高等学校 (主催者教育研究会) 松村 一太郎	16 B ①	県外派遣教員1年間のあゆみ	世田谷区立 駒繫小学校 山田 芳裕
14:30～ 14:40		休憩			休憩	
14:40～ 15:10	16 A ②	科技高『幸せ』プロジェクト ～ウェルビーイングな学校をめざして～	科学技術高等学校 中村 元	16 B ②	居住地校交流における 支援のあり方を考える	越前町立朝日小学校 林 芳和 清水特別支援学校 桑島 愛佳
15:10～ 15:20		休憩			休憩	
15:20～ 15:50	16 A ③	中高大連携から小中高大連携へ	大野高等学校 (奥越教育研究会) 佐藤 拓也	16 B ③	生徒の「自分事」意識を高める 社会科授業を目指して	高志中学校 小川 駿也
15:50～ 16:00		休憩			休憩	
16:00～ 16:30	16 A ④	若手と取り組む職業系高校の 意欲的な学びの実践	福井農林高等学校 酒井 治	16 B ④	福井県版ポジティブ教育の実践について	越前市 武生第二中学校 中村 香織
16:30～		諸連絡			諸連絡	



自分の考えを自分らしく表現できる児童を育てる～自分で選び、好きに学ぶ言語活動の試み～

福井県教教育総合研究所 教科研究センター／研究員 浅岡 揚子

- 15 | A ① 自分の考えをうまく表出できないという児童が、自分らしく表現できるようになることを目指し、小学校国語科においてどのような言語活動を設定するとよいかについて研究しています。教師が「自分で選び、好きに学ぶ言語活動」を設定することができれば、児童が自分の考えに納得解を得ることができ、表現につながるのではないかと仮説のもと、昨年度から研究協力校で授業実践を行ってきました。実践を通して私自身省察していったことを中心にお伝えします。

国語科の言語活動 # 自律的な学び # 考えの形成の過程

創造的な学びを支えるカリキュラムデザインと集団づくり

福井市社北小学校／教諭 百田 翔哉

- 15 | A ② 「VUCA」時代を生きる子どもたちに必要な資質能力は何か、そのために教師は何ができるのか。自身が担任する特別支援学級を中心に、校内研究グループの仲間や若手教員とともに考え、実践と省察を繰り返してきました。カリキュラムデザインにより感じた「学びの手応え」や個の視点で考え寄り添う学習から生まれた「主体性」、多様な学びや価値観を認め合える機会を設定することによる「集団としての質の高まり」。いずれも、子どもの学びだけではなく、教師自身の学びでもあったと実感しています。生活単元学習や総合的な学習の時間を柱に、教師の協働による実践を子どもの学びの軌跡を交えて紹介していきます。

カリキュラムデザイン # 集団づくり # 特別支援学級 # 生活単元学習 # 総合的な学習の時間 # 教師の協働

福井県の教育を改めて考える

茨城県つくば市立春日学園義務教育学校／教諭 伊藤 康孝

- 15 | A ③ 今年度、茨城県内の学校に1年間派遣され、つくば市立春日学園義務教育学校に勤務しています。つくば市では、「教えから学びへ」「管理から自己決定へ」「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」というテーマの元、自分事として捉え行動している子どもに育つような取り組みをしています。春日学園では特に、探究的・創造的な学びを重視していて、定期的に教師同士が自ら校内研修を行い、授業のレベルアップなどに努めています。お互いに得意なこと、知っていることなどを発表し合い、お互いの学びにつなげている姿が素晴らしいと感じています。

これからの子どもたちにはどのような教育が望まれるのか、私自身の経験から考察し、お伝えします。

県外派遣教員 # 義務教育学校 # 福井県の教育 # 探究的・創造的な学び

オンラインで広がる学びの可能性

福井市安居小学校／教頭 飯田 吉則

- 15 | A ④ 今年度実践した他校とのオンライン交流授業、見学地からの様子をオンラインで中継するオンライン見学、インターネット上の仮想空間（メタバース）使用の取り組みなどを紹介します。実践における課題を共有し、改善方法やその発展性についてご意見をいただきたいと考えています。

オンライン交流授業 # オンライン見学 # メタバース

データとデザインで創出する、生徒主体の探究学習

勝山高等学校／教諭 野坂 智裕

探究コーディネーター／永野 龍典

- 15 | A ⑤ 効果的な探究テーマの設定や、外部資源の活用方法について考察します。さらに、本校の探究活動の成果を、一般性のある全国的なデータと比較することで、その特徴と課題を明確にし、今後の展望について議論します。

また、生徒が主体的に探究テーマを深掘りしていく過程における支援のあり方について考察します。特に、生徒一人ひとりと丁寧な対話を重ね、進捗状況を細かく確認することで、より深い学びへとつなげる取り組みを紹介します。

さらに、発展的に、発表資料のデザイン力向上を通して思考の整理を行い、表現力や伝える力を向上するための具体的な指導内容や、レポート添削における工夫点、そして、探究関連行事を盛り上げるためのアイデアなども共有します。

生徒主体 # 探究活動 # カリキュラム・マネジメント



1/15 < B > 実践発表要旨



ふくいだからできる、ふくいの子どもたちのためにできる 教職員の働き方改革とウェルビーイング

福井県教育庁 教職員課学校業務改善G／主任 増山 温子

- 15 | B ①
- これまでのおよそ50の学校現場や自治体の取材を通じて見えてきた、「福井県だからこそできる」学校業務改善、ウェルビーイングを高めながら進めていける、働き方改革について発表します。
- 組織として、教職員個人としてだけでなく、保護者や地域も含めて納得感のある「ふくいらしい」学校業務改善を進めることで、子どもたちのウェルビーイングも高められる教育環境を作っていきますよう！

ふくい # 働き方改革 # ウェルビーイング # 学校業務改善

自己調整力の発揮

小浜市小浜第二中学校／教諭 板谷 奈穂子 廣瀬 俊則 早 貴文

- 15 | B ②
- 小浜市には、昭和の時代から大切にされてきた3S学習（ひとり調べ→みんな調べ→振り返り）という教育理念があります。本校では、この理念を継承しつつ、市の授業力アップ研究指定（R5, 6）を機に、一人一台端末を使った授業DXを進めながら、自分の課題を探究サイクルの中で解決していく「令和型」3S学習の実現に向けて試行錯誤しています。「レギュレイトフォームを使った自己調整力の育成」「探究サイクルの視点からデザインした単元構成」「ICT活用で生まれる協働」をキーワードに、国語・社会・理科の授業実践を発表します。また、教科担任制という中学校の現場で、学校全体でどのように研究実践を進めていったのかもお伝えします。

自己調整力 # 「令和型」3S学習 # 一人一台端末を使った授業DX # 国・社・理の授業実践

デジタル教科書を使った実践

〇〇中学校／教諭 〇〇

- 15 | B ③
- 発表校が決まり次第、本研究所HPでお知らせします。

#

デジタル教科書を使った実践

〇〇小学校／教諭 〇〇

- 15 | B ④
- 発表校が決まり次第、本研究所HPでお知らせします。

#

PBLとSTREAM教育の実践研究

坂井市立春江小学校／教諭 五十嵐 洋行

- 15 | B ⑤
- 福井県をPRすることをプロジェクトのメインテーマに掲げ、第6学年の児童と担任が共に歩んだ1年間のプロセスを紹介します。具体的な実践内容は、総合的な学習の時間の学びを核とした福井県PR（福井駅でのインタビュー活動・パンフレット等の作成・県内外での配布）とSTREAM教育（ジオラマ制作）です。
- 加えて、今年度全学年でチャレンジしているカリキュラム・マネジメントの実践についても紹介します。

PBL # STREAM教育 # 総合的な学習の時間 # カリキュラム・マネジメントの実践



1/16 <A> 実践発表要旨



哲学対話の実践を解き明かす～対話の談話分析と生徒の語りを通じて～

若狭高等学校／教諭 松村 一太郎

- 16 | A ① 本実践報告では、地歴公民科の授業において哲学対話の手法を取り入れた実践の実際について発表します。発表者は2年前より哲学対話の手法を学び、主権者教育に資するものとして自身の実践に取り入れてきました。昨年はその実践の紹介と意義について発表しましたが、今年度は具体的な対話の場面を微視的に分析したものと事後の生徒の語りを紹介することで、改めてこの実践の特徴や魅力、意義について説明します。

哲学対話の実践 # 地歴公民科の授業 # 主権者教育

科技高『幸せ』プロジェクト ～ウェルビーイングな学校をめざして～

科学技術高等学校／教諭 中村 元

- 16 | A ② VUCAやSociety5.0など予測困難な時代の中、「どのような生徒を育てようとしているのか」という問いに自分なりの考えは持っているものの、生徒と共に新しい時代を生きる教員として、「本当にこれでよいのか」という自問自答が続いていました。
今回、この問いに対して、ウェルビーイング（幸せ）を軸に「学校は何を望まれているのか」という視点に変え（戻し）アプローチした「科技高『幸せ』プロジェクト」を行いました。その結果をもとに、学校や教員がどうありたいかを考えた「カリキュラム・マネジメント」についても報告します。

ウェルビーイング # 学校は何を望まれているのか # カリキュラム・マネジメント

中高大連携から小中高大連携へ

大野高等学校／教諭 佐藤 拓也

- 16 | A ③ 8年前に本校に赴任し、地域の中の学校であることを意識し、中高連携に取り組み始めました。中学校の先生方のご協力を得て、3年前からオンラインでの中高連携授業を行っております。1対1だけでなく、高校、中学校複数校での同時実施も行い、大学とも対面での交流授業を行ってきました。大野市では今夏、「18年間を通して育てる大野っ子」とのテーマで講演も開催されております。探究であれば、小中高を通した活動に加え、大学生が関与した活動が行えるのではないかと考え、現在進めております。本発表では、実践の概要を紹介し、成果と課題、今後の展望についてお話しします。

小中高大連携 # オンライン討論 # 探究

若手と取り組む職業系高校の意欲的な学びの実践

福井農林高等学校／教頭 酒井 治

- 16 | A ④ 中学校までの学習において成功体験に乏しく、そのため学習意欲を失い、学びに対して消極的な姿勢である生徒を多く抱える本校において、「生徒の学ぶ意欲・学びの動機」を刺激する授業実践は、生徒が将来「学び続ける姿勢」を持ち続けるために、最も重要な課題です。農業単独の職業高校として、農業専門教科で積極的な授業改善に取り組んでいますが、普通教科を巻き込んだ学校全体の取り組みには至っていません。普通教科に対する学習意欲が低い生徒たちに、「学ぶ意欲・学びに向かう姿勢を高める」動機付けに焦点を当てた、「生徒の興味を引き続ける授業のあり方」についての研究です。また、高校農業科と中学生の課題研究との連携についても発表します。

若手と取り組む # 職業系高校 # 生徒の学ぶ意欲 # 学びの動機 # 高校農業科と中学生の連携



1/16 実践発表要旨



県外派遣教員1年間のあゆみ

東京都世田谷区立駒繫小学校／教諭 山田 芳裕

- 16 | B ① 今年度、県外派遣教員として世田谷区立駒繫小学校（以下、駒繫小）で校務や授業でのICTの活用について、実践の中で学んでいます。派遣校である駒繫小は、2023-2026年のApple Distinguished Schoolに認定されており、タブレット端末（iPad）を活用した先進的な取り組みを進めている学校です。本発表では、駒繫小で行ってきた授業実践の概要、参加してきた研修、学校訪問での学びの考察を中心に報告します。

県外派遣教員 # ICTの活用(校務・授業) # Apple Distinguished School # 授業実践

居住地校交流における支援のあり方を考える

越前町立朝日小学校／教諭 林 芳和

清水特別支援学校／教諭 桑島 愛佳

- 16 | B ② 居住地校交流は、特別支援学校に通う児童・生徒が居住地の小・中学校の児童・生徒と一緒に交流や共同学習を行う、インクルーシブ教育の理念を実現するための取り組みの一つです。朝日小学校と清水特別支援学校は、令和2年度から年2回程度の交流を行ってきましたが、今年度、文科省の「インクルーシブな学校運営モデル事業」の指定を受け、交流の質の向上をめざして共同学習の機会を年間10回程度に増やす試みをしています。今回の発表では、実際の交流の様子と子どもたちの変化、交流をする上での苦労や工夫についてお話しします。

居住地校交流 # インクルーシブ教育 # 共同学習

生徒の「自分事」意識を高める社会科授業を目指して

高志中学校／教諭 小川 駿也

- 16 | B ③ 私は、授業は教科教育だけでなく、生徒一人ひとりの自己肯定感を育み、コミュニティを形成する場でもあると考えています。そして、授業をそのような場にするためには、生徒が題材やそこから生まれる問い、その解決に向けた探究を「自分事」として捉えることが重要です。本発表は、現任校での6年間の社会科授業実践の経験をもとに、生徒の「自分事」意識を高めるために必要なことについての考察です。

社会科授業 # 生徒の「自分事」意識を高める

福井県版ポジティブ教育の実践について

越前市武生第二中学校／教諭 中村 香織

- 16 | B ④ 本校では、生徒に幸福を自ら創り出す力を育てることで安心、つながり、絆を生み出し、思いやりのある学校風土を醸成しようと、今年度からポジティブ教育に取り組んでいます。全教員がポジティブ教育を行う目的を理解した上で実践に取り組めるよう、研修会を行ったり、教務部が中心となって研究を進めたりしています。本発表では、研究内容や成果と課題についてお話しさせていただきます。

福井県版ポジティブ教育 # 思いやりのある学校風土